

農場長より

本年度は「青いカーネーション」の栽培がテレビや新聞で報道されるなど、本校がいろいろな面で話題になりました。そのカーネーションも春からは開花が本格化し、地域の小学校や保育所などに切り花をお配りすることも出来るのではないかと考えています。

農場の生産物を販売していますが、どの時期にどんなものが売られているか分からないという声もあり、春からは定期的に校内に販売所を設けて販売する計画でいます。学校の連絡用紙をよくご覧いただき、販売日をご活用下さい。

卒業生の進路状況については、リーマンショック以来、就職者には厳しい状況が続いていますが進学の方では10年ぶりに国立大学合格の快挙があげられます。産業技術科の佐藤涼子さんが新潟大学に合格しました。

農業クラブ等で生徒の活躍が大変目立った年であったと思います。県大会で多くの入賞者を出し、昨年に引き続いて全国大会にも参加しました。今年も引き続き優秀な成績を残せるよう、農場全体が活気ある指導を行い、生徒の意欲を喚起していきたいと準備をしている次第です。

作物部門

課題研究において、3年生は畑作物を中心に2年生からの継続研究で《地域に適した畑作物の試験》を実施してきました。そば・エゴマの栽培や落花生の栽培などに取り組み、インターネット販売を新たに実施、エゴマ油やそば粉は大盛況に終わりました。2年生は、コシヒカリとひとめぼれの栽培と稲わらの飼料確保をテーマに研究を進め、《イネの品種比較による地域に適した品種の研究》について発表しました。研究の結果は、ひとめぼれが畜産との複合経営では有効であることが分かりました。

次に、全生徒で行った『全校田植え』など、年間を通じて広大な千咲農場を力を合わせて管理した結果、無事収穫を迎えることができました。大変、実りの多い年でありました。

次年度は公開文化祭の年です。是非来校頂き、生徒の活動の様子を見て頂きたいと思います。よろしくお願ひ致します。



畜産部門

本年度の総括をします。

まず、生産部門ですが、肉牛はA5等級が3頭、A4等級2頭B2等級が1頭という成績でした。売り上げも最高値が約103万円で最安値は約57万円でした。平均は約83万円と予算額の80万円を超える結果となりました。

次に子牛の生産ですが、6月と10月に各1頭ずつ出荷しました。6月に出荷したメスの子牛は血統があまり良くなかったため約26万円と安かったのですが、10月に出荷したオスの子牛は約50万円で売買されました。当日は台風18号の影響で購買者が少なく心配していましたが、全体でも上位の高値で買い取られていきました。天気が良ければもう少し高く売れたのではないかと思います。

最後にプロジェクト研究ですが、3年生は、7月に行われた農業クラブの県大会で学校の代表として発表してきました。惜しくも入賞は逃しましたが良い経験が出来たと思います。2年生は、1月に行われた校内発表では、研究半ばでもあるため入賞を逃しました。引き続き研究を進めていきたいと思ひます。

野菜部門

今年度の野菜部門は、天候にとっても恵まれ、野菜もよく生育してくれました。そのおかげで、生徒の実習も充実した内容になりました。販売実習の際には、みなさんに沢山野菜を買って頂き、ありがとうございました。また、来年度も「安全で美味しい野菜」をお届けできるよう実習に励んでいきたいと思ひます。

今年はハウス内に電熱線を設置し、2月上旬から来年度の野菜のたねまきを始めました。春には野菜苗の販売を行いますので、購入をご希望される方は、生徒を通して注文頂くか学校までご連絡下さい。なお、保護者懇談会で販売できるよう生徒と一緒に準備を進めていきたいと思ひます。



草花部門

本校の草花部門は、花壇用の草花類（パンジー・マリーゴールド・サルビア・ペチュニア・ペゴニアセンパフローレンス）と鉢もの類（球根ペゴニア・カンナ・グロキシニア・シクラメン・プリムラ類・シネリアなど）の栽培を中心に取り組んでいます。

モットーは、《安全・安価で高品質の草花を地域に提供する！》そして、生徒が販売実習に出て消費者の皆様へ愛されることです。それは、販売実習を終えて黄色い手袋を振りながら帰ってくる生徒の姿により判定されます。

卒業を祝うかのように、本校温室は写真のようにプリムラ類・シネリア・パンジー・ラナンキュラスが咲き乱れております。本校の卒業式を皮切りに喜多方市内の小・中学校の卒業式も彩ることになります。



農業クラブより

さる、1月22日に『校内研究発表大会』がありました。これは、授業の科目『課題研究』で、2・3年生が作物・畜産・草花・野菜の4部門を専攻し、研究テーマに沿って1年間調査・研究したデータをパソコンでまとめたものを発表する場です。各部門から代表を1題選んで発表に臨みました。

審査員の先生からは「地域に密着したテーマもあり、今後の発展が期待できる。原因の検証を詳しく進めると客観的な考察ができるのではないか。」といった講評をいただくことが出来ました。

なお、最優秀賞となった3年生野菜班の発表は、来年度行われる県学校農業クラブ主催の意見・研究発表県大会へ本校代表として出場することになります。



	研究テーマ	発表者
最優秀賞	エゴマのマルチの有無による生育の違いについて	3-1 大月 秀樹 他2名
優秀賞	キュウリの生育調査	2-1 大竹 晃司 他3名
優秀賞	山都地域に適した水稻品種の検証	2-1 江口 洋将 他7名
優秀賞	高品質なシクラメンの生産をこころみて	3-1 佐藤 涼子 他4名

